

PRESS RELEASE

2026年3月XX日

【ブランド USA】

アカデミー賞受賞・ノミネート作品の舞台となったアメリカ各地の魅力を紹介～
一般消費者向けデジタルプラットフォーム「AmericaTheBeautiful.com」にて公開

カリフォルニア州ロサンゼルス市ハリウッドにて米国時間 3 月 15 日(日)に開催された第 98 回アカデミー賞授賞式を機に、映画作品やその舞台となったロケーションへの関心が高まっています。近年、映画やテレビ作品の舞台となった場所を訪れる「セット・ジェッティング」と呼ばれる旅行スタイルが世界的に人気となっています。こうした背景を受け、アメリカ合衆国の公式観光マーケティング機関のブランド USA ではこのたび、一般消費者向けマーケティングキャンペーン「アメリカ・ザ・ビューティフル」の一環として、アカデミー賞受賞作品およびノミネート作品の舞台となったアメリカ各地のロケーションを紹介するコンテンツを公式サイト「AmericaTheBeautiful.com」にて公開しました。カリフォルニアのビーチから東海岸の歴史深い都市まで、映画史に残る作品を彩った多彩なデスティネーションを紹介しています。

カリフォルニアの美しい海岸線、アメリカ南西部の広大な砂漠、中西部の歴史ある街並み、そして東海岸の都市景観など、アメリカ各地には映画の名シーンを生み出した魅力的なロケーションが数多く存在しています。今回公式サイトで新たに公開したコンテンツの一部は以下のとおりです。

西部

『バービー』撮影地:カリフォルニア州ロサンゼルス(2024 年アカデミー賞ノミネート作品)

世界的に大きな話題となった映画『バービー』は、2024 年のアカデミー賞で作品賞を含む複数部門にノミネートされました。物語の大部分は架空の世界「バービーランド」で展開されますが、印象的なシーンの一部はロサンゼルスの海岸沿いで撮影されています。特に海岸沿いをローラーブレードで滑走するシーンはヴェニス・ビーチのボードウォークで撮影され、現在でも訪問者は太平洋を望む海岸沿いを散策したりサイクリングを楽しみながら、ストリートパフォーマーや活気あるビーチの雰囲気を経験することができます。また、サンタモニカ、ダウンタウン・ロサンゼルス、センチュリーシティ、ロングビーチなどでも撮影が行われました。

『ラ・ラ・ランド』撮影地:カリフォルニア州ロサンゼルス(2017 年アカデミー賞 監督賞ほか 6 部門受賞)

クリエイティブな映画の街、ロサンゼルスの魅力が描かれた映画『ラ・ラ・ランド』は、2017 年のアカデミー賞でデイミアン・チャゼルが監督賞を受賞するなど、計 6 部門を受賞しました。映画のミュージカルシーンはロサンゼルス市内の各地で撮影され、フリーウェイの高架道路やグリフィス天文台などが印象的に登場します。特に天文台のプラネタリウムの下で繰り広げられるダンスシーンは映画の象

徴的な場面として知られており、天文台のテラスからはロサンゼルス街の街並みやハリウッドサインを一望することができます。

『ノマドランド』撮影地:ユタ州・アリゾナ州(2021年アカデミー賞 作品賞・監督賞・主演女優賞受賞)
2021年のアカデミー賞で作品賞を始め、クロエ・ジャオが監督賞、フランシス・マクドーマンドが主演女優賞を受賞した映画『ノマドランド』には、ユタ州とアリゾナ州の州境に位置するモニュメントバレーの壮大な砂漠の風景が登場します。砂漠にそびえ立つ巨大な岩山が、孤独と美しさを象徴する印象的なシーンとして描かれており、実際に足をはこぶとドライブやナバホ族のガイドによるツアーを通じてこの象徴的な風景を楽しむことができます。

南部

『リンカーン』撮影地:バージニア州リッチモンド(2013年アカデミー賞 主演男優賞受賞)
スティーブン・スピルバーグ監督の歴史映画『リンカーン』では、ダニエル・デイ・ルイスが2013年のアカデミー賞で主演男優賞を受賞しました。映画はバージニア州各地で53日間にわたり撮影され、リッチモンドの歴史的建築や街並みが南北戦争時代の雰囲気を見事に再現しました。訪問者はリッチモンドの歴史地区や博物館を巡りながら、この重要な時代のアメリカの歴史を体感することができます。

『フォレスト・ガンプ』撮影地:ジョージア州サバンナ(1995年アカデミー賞 作品賞ほか6部門受賞)
『フォレスト・ガンプ／一期一会』、1995年のアカデミー賞にて作品賞を始め、主演男優賞(トム・ハンクス)を含む計6部門を受賞しました。フォレスト・ガンプがチペワ・スクエアのベンチに腰を掛け、人生を語るシーンは印象的です。現在、そのベンチは博物館に保存されていますが、広場は今でもサバンナ歴史地区の中心的な場所となっており、スペイン苔に覆われたオークの木々や歴史ある建物がアメリカ南部らしい美しい景観を作り出しています。

『レインマン』撮影地:ケンタッキー州ニューポート(1989年アカデミー賞 作品賞ほか4部門受賞)
『レインマン』は1989年のアカデミー賞で作品賞を始め、主演男優賞(ダスティン・ホフマン)を含む計4部門を受賞しました。ダスティン・ホフマンとトム・クルーズが兄弟役を演じ、アメリカを横断する旅を描いた作品で、ケンタッキー州北部のニューポート周辺で撮影が行われました。地元の老舗イタリアンレストラン「ポンピリオズ」やエバーグリーン墓地なども映画のシーンに登場し、現在でも訪問することが可能です。

『6才のボクが、大人になるまで。』撮影地:テキサス州オースティン(2015年アカデミー賞 助演女優賞受賞)

リチャード・リンクレイター監督の映画『6才のボクが、大人になるまで。』は、2015年のアカデミー賞でパトリシア・アークエットが助演女優賞を受賞しました。平凡な家族の成長と日常生活を描いたこの映画は約12年もの長期間にわたりテキサス州オースティン周辺で撮影されました。オースティンでは、ライブ音楽、個性的なショッピング店舗、レディ・バード湖周辺の散策路など、感動的な映画の舞台となった街の魅力を体験することができます。

中西部

『ダークナイト』撮影地:イリノイ州シカゴ(2009年アカデミー賞 助演男優賞ほか受賞)

クリストファー・ノーラン監督の『ダークナイト』は、2009年のアカデミー賞で助演男優賞などを受賞しました。映画ではシカゴの都市景観が架空都市「ゴッサム・シティ」として登場し、ダウンタウンのローワー・ワッカー・ドライブなどが印象的なカーチェイスのロケ地として使われました。

『ホーム・アローン』撮影地:イリノイ州ウィネットカ(1991年アカデミー賞 作曲賞ほかノミネート)

1991年のアカデミー賞にノミネートされた『ホーム・アローン』は、シカゴ郊外の住宅街が舞台でした。映画に登場した家があるウィネットカの閑静な住宅街は、現在も映画ファンが訪れる人気のスポットとなっています。

『マディソン郡の橋』撮影地:アイオワ州マディソン郡(1996年アカデミー賞 主演女優賞ノミネート)

1996年のアカデミー賞でメルル・ストリープが主演女優賞にノミネートされた映画『マディソン郡の橋』では、アメリカ中西部ならではの田園風景と歴史ある屋根付き橋が象徴的に描かれました。メインの舞台となったアイオワ州マディソン郡では、複数のカバードブリッジを訪れ、のどかな農村風景を楽しむことができます。

北東部

『ロッキー』撮影地:ペンシルベニア州フィラデルフィア(1977年アカデミー賞 作品賞ほか3部門受賞)

『ロッキー』は1977年のアカデミー賞で作品賞を含む3部門を受賞しました。フィラデルフィア美術館の階段を駆け上がるトレーニングシーンは映画史に残る名場面として知られており、現在でも多くの訪問者がこの階段を駆け上がり、近くにあるロッキー像との写真を撮る人気スポットとなっています。

『ウエスト・サイド・ストーリー』撮影地:ニューヨーク州ニューヨーク市(2022年アカデミー賞 助演女優賞受賞)

ニューヨークは数多くの映画の舞台として知られています。スティーブン・スピルバーグ監督による『ウエスト・サイド・ストーリー』は、2022年のアカデミー賞で助演女優賞を受賞しました。リンカーンセンターをはじめとする文化施設やアップパーウエストサイドの街並みなど、ニューヨークの芸術文化を象徴するロケーションが作品の舞台として登場しています。

「映画の街」ロサンゼルス

アカデミー賞授賞式は1929年の第1回以来、数回の例外を除き、カリフォルニア州のロサンゼルスが舞台に開催されてきました。最初の授賞式が行われたハリウッド・ルーズベルト・ホテルから、現在の会場であるドルビー・シアターに至るまで、ロサンゼルスは世界の映画産業の中心地として発展してきました。ハリウッド・ウォーク・オブ・フェームや映画スタジオツアーなど、映画文化を体感できるスポットも数多く、映画ファンにとって特別なデスティネーションとなっています。

1世紀以上にわたり、映画製作者たちはアメリカ各地の壮大な自然景観や歴史ある街並み、都市のスカイラインを舞台に物語を紡いできました。こうした映画の舞台となった場所の多くは訪問可能であり、旅行者はスクリーンの中の世界を実際に体験することができます。新しい世代の映画制作者が引き続きアメリカ各地からインスピレーションを得るなか、アメリカは映画の舞台であると同時に、旅行



者が物語の世界へ足を踏み入れることのできる特別なデスティネーションであり続けています。

「アメリカは長年にわたり“映画の魔法”を生み出す場所であり、様々な景観や都市が印象的な物語の舞台の役割を果たしてきました。その魅力は、旅行にも大きな影響を与えています。アメリカ訪問に関心を持つ旅行者の約 40%が、映画やテレビに登場した場所を訪れてみたいと考えており、最近アメリカを訪れた旅行者の 5 人に 1 人が、映画をきっかけに旅行先を検討したと回答しています。映画祭の結果が次々と発表されるこのシーズンは、こうしたロケーションが世界的に注目を集め、実際に訪れて体験したいという旅行意欲を高める時期となっているのです。」(ブランド USA のプレジデント兼最高経営責任者(CEO)、フレッド・ディクソンのコメント)

旅の計画や詳細情報については、ブランド USA の公式ウェブサイト「AmericaTheBeautiful.com」をご覧ください。

上記ニュースの関連高解像度画像・映像素材は、[こちら](#)よりダウンロードいただけます。

■ ブランド USA について

アメリカ合衆国の公式観光促進団体であるブランド USA は、合法的にアメリカへと渡航する旅行者を対象としたインバウンド旅行需要の喚起、米国経済の強化、輸出の拡大、雇用の創出、そして地域社会発展への貢献を使命として掲げています。市場調査の結果に基づいたマーケティング活動と、統一化されたアメリカ旅行業界と政府関連機関の意図を礎に、最新の査証および入国関連の情報を発信し、アメリカ合衆国を世界有数の旅行先として位置づけるべく、活動を展開しています。

ブランド USA は 2012 年の設立以来、旅行業界のパートナーと連携して実施してきたマーケティング施策により、訪米旅行者を 1,030 万人増加させ、約 350 億ドル(約 5 兆 2,500 億円/1ドル=150 円換算)の消費を創出し、その経済効果は累計で 760 億ドル(約 11 兆 4,000 億円)に達しています。また、これらの取り組みによって年間平均約 4 万件の雇用を支え、100 億ドル(約 1 兆 5,000 億円)の税収を生み出しています。これらの成果はすべて、米国納税者の負担なしで実現されており、1 ドルの投資にあたり 20 ドル(約 3,000 円)の経済的リターンを生み出しています。

当リリースに関するお問い合わせ先

ブランド USA 日本事務所 (広報担当: 早瀬、水口、野間)

TEL: 03-6261-5385 E-mail: BrandUSAJapan@aviareps.com